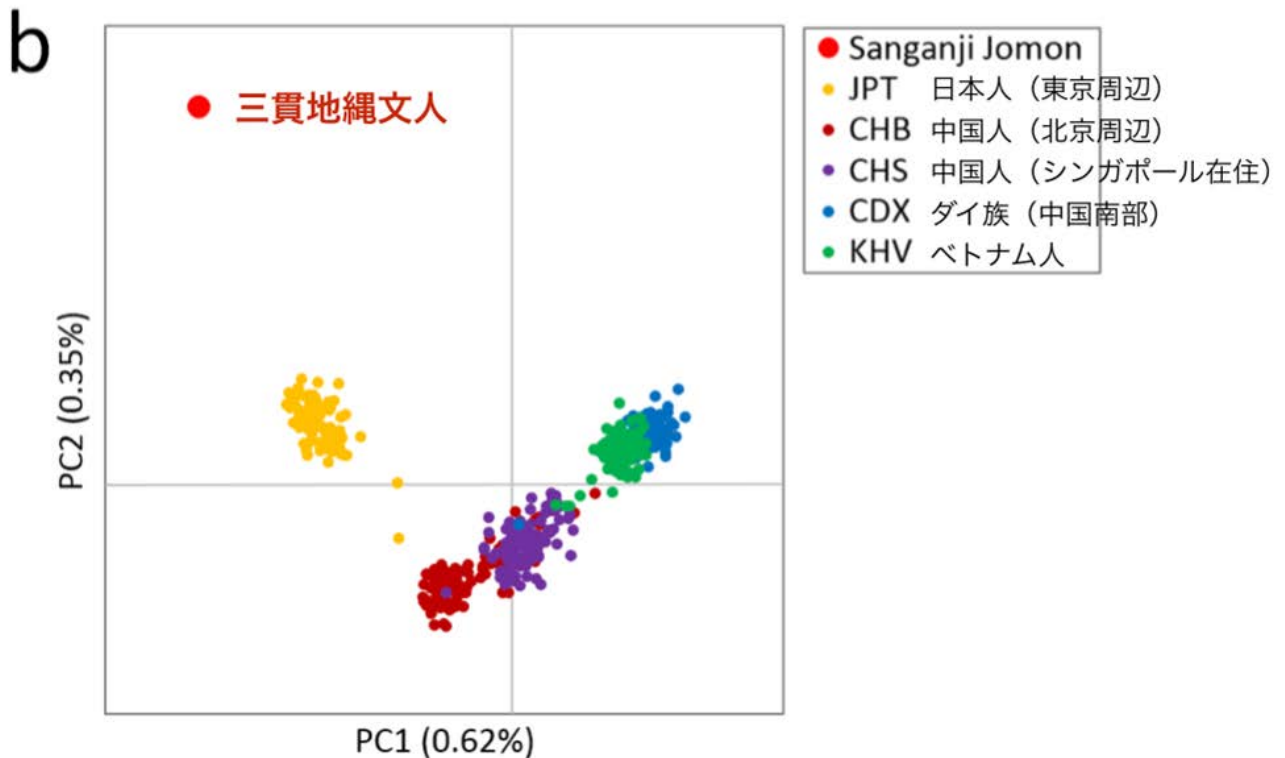


2016 長月の夢 3,000 年前の縄文人遺伝子 15%を受継ぐ現代日本人

2016 年 9 月 1 日、総合研究大学院大学のプレスリリースから、古代 DNA の核ゲノム分析を基に、縄文人が東ユーラシア人の中で最初に分岐した最も古い系統であり、縄文人ゲノムの 15%程度が現代の日本列島人に遺伝していると理解しました。総研大と国立遺伝学研究所の研究グループは、福島県三貫地貝塚(約 3,000 年前)縄文人の奥歯の DNA ゲノム塩基配列から、縄文人がアイヌ人に最も近く、次いでオキナワ人、それからヤマト人に近縁していることを証明しました。その定量解析の一つとして提供された図 b は、三貫地縄文人と他の人類集団ゲノムデータとの遺伝的近縁関係を主成分分析(PCA)で示しており、ヤマト人は三貫地縄文人と北京周辺中国人との混血であることを示唆しています。



それにしても、10 万年前にアフリカから拡散したホモ・サピエンスは 6 万年前に西ユーラシア人と東ユーラシア人に分岐し、4 万～3 万年前に東ユーラシア人が日本列島へ渡って来たと言われています。本研究は、東ユーラシアのシベリア古代人が新大陸へ渡っていったとされる 1.5 万年前よりも以前に、三貫地縄文人が分岐しているということをも物語っているとしており、本当に素晴らしい研究成果であると感じました。

縄文人の正統な後継者である現代日本人は、人類共通の夢実現へどのように取り組んでいくのか？ 眼前に立ちはだかる大きな課題であっても、人類の時間的連続性が担保される限り、克服されない課題はないと信じます。(文責 アーキジオ春秋)